

第1315回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成26年9月18日 木曜日
開会 10時00分 閉会 12時00分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席委員 委 員 長 藤原 勝紀
委 員 星川 茂一
委 員 奥野 史子
委 員 秋道 智彌
委 員 鈴木 晶子
委員・教育長 生田 義久

4 欠席委員 なし

5 傍聴者 2人

6 議事の概要

(1) 開会

10時00分、委員長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第1314回京都市教育委員会会議の会議録について、全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

報告1件、報告2件

イ 非公開の承認

議案1件、報告1件については、賞罰等職員の身分取扱いその他の人事に関する案件議会への報告事項に関する案件であり、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全委員の承認が得られた。

ウ 報告事項

「新しい工業高校」の施設整備に係る検討状況について

(事務局説明)

○三宅 新工業高校開設準備室長

平成24年12月、『京都市立工業高校将来構想委員会』より、洛陽工業高校と伏見工

業高校の再編が提言され、平成25年4月に教育委員会において策定した「京都市立工業高校の再編に関する基本方針」に基づき、『新しい工業高校の整備候補地選定委員会』を設置し、同年12月にはこの選定委員会から「立命館中学・高校を最有力候補地とすべき」とする提言がされ、それを踏まえ、同月に教育委員会にて同校を新しい工業高校（以下、新工業高校）の整備予定地に決定した。

また、同校の不動産取得については、土地及び建物総額約21億円で学校法人立命館から買入れることについて、本年5月市議会において議決され、この9月より本市に所有権が移ったところであり、来月末までに正式に引き渡しを行う予定である。

そうした中、現在、新工業高校の開校準備を、本年4月に設置した両校の教職員を含む「新工業高校開設準備室」を中心に、学校現場・教育委員会が一体となって、進めているところである。

<旧立命館中高の施設概要について>

昨年末、整備予定地の審議前に、教育委員の方々にも視察いただいた旧立命館中学・高校についてであるが、敷地面積は約6万7千㎡、建物面積は全体で約2万2千㎡ある広大な施設である。

中庭を有する口の字型の建物が立命館中・高等学校開校時の建物であり、一部は増築等がしているが、昭和63年の建築である。

西側の3階建の新館については、平成8年6月に建築され、普通教室や情報教育関係、プレゼンテーションルームとして使用していた。

校舎中央部、中庭を挟んで南北にある部分は、これまで普通教室として使用されていた。中央から西側の1・2階は校長室や職員室、図書室、800人収容のホールとして使用しており、東側については、音楽・家庭科などの特別教室として使用していた。

3・4階については、西側部分をLL教室（語学実習室）、食堂や普通教室として使用しており、東側については、普通教室の他、理科実験室などの特別教室として使用していた。

体育関係の施設としては、この校舎の北側に位置している格技場や体育館の他、人工芝と野球場の2箇所のグラウンド、テニスコートがあり、ラグビー、サッカー、野球、テニス、陸上など様々な競技が併存可能である。

<新工業高校の整備概要について>

施設改修等の予定については、現在、本年3月に策定した整備基本構想を基に実施設計を進めているところである。実施設計段階においては、便宜上、アルファベットで各棟を整理している。

その具体的な検討状況について、まず玄関部分には、クリエイトCUBEと称し、新工業高校のシンボル・学校の顔となる建物を新築したいと考えている。1階部分に400台駐輪可能な自転車置き場の整備に加え、その上には、正門から内部が見通せるガラス張りの構造とし、新しく設置する科目「プロジェクト工学」において、各専門コースで学習した内容をもとにアイデアを一つの形に結集していくための工房や、地域や小中学生との交流イベントや産学連携事業など多目的に使用できる約250㎡のオープンスペースを整備する予定である。

また、エレベーターも設置し、正門部分からのアクセスの向上とバリアフリーの機能を高めたいと考えている。

次に1階部分であるが、東側のD棟は、工業高校ならではの住宅や橋の模型製作、土質などの資質を学ぶ材料実験など、土木・建築などのまちづくり系の実習室などを中心に整備する予定である。

校舎中央のB棟については、引き続き、プロジェクターや無線LAN等のICT環境の充実を図りながら、普通教室として活用していきたいと考えている。

B棟の西側にあるA棟は、ホールや管理諸室等はそのまま活用し、その西側の部分、F棟は、新館となっていた棟だが、電子・情報の処理・技術やCADや3D-CADを使用した設計・構造などを行う実習室、また英語力を養うLL教室（語学実習室）の機能を有したパソコン（メディア）関係の実習室を集約する予定である。

2階について、北東側にあるE-1棟は、現存の格技場を、その天井高と柱のない構造等を有効に活用し、大掛かりな機械工作や溶接、レーザー加工など行う実習スペース「旋盤等工作機械を設置する工房」に改修する予定である。

その南側にあるD棟についても、実習スペースとして、今注目の3Dプリンターなど最先端の機器等を活用するための、電気・電子・機械などの、ものづくり系の実習室を中心に整備する予定である。

校舎中央のB棟、C棟については1階と同様、そのまま普通教室として活用する。3階・4階についても同様に、校舎中央部は普通教室棟となっている。

また、F棟の南東側にあるプレゼンテーションルームについては、100名規模の大きな部屋となっており、現存のまま、引き続き活用する。

3階については、北東側のE-1・2棟は、アリーナだけで1,400㎡（公式のバレーボールコートなら同時に3面可能）を有する体育館を、継続して使用し、その奥にトレーニングルームを設置することにより、一体的な使用を可能とする。

その南側のD棟は、理科実験室、家庭・美術系の教室や茶華道を学ぶ和室として一部を改修して使用する予定である。D棟の一番南側には演習室が4室あるが、課題発見・解決型学習など多目的に活用できる演習室または、学級規模によっては、ホームルームへの転用も可能であり、柔軟に活用していきたい。

また、中央のB棟・C棟を挟んで西側は、「ものづくり」の基礎を育む製図関係の実習室に改修する予定である。

最上階の4階の北東側にある部分について、これまで第2体育館として使用されていたが、現存する格技場を実習スペースとして改修するため、この部分を新たに格技場として改修する予定である。

最後に、現存のプールについては、学校現場からプールとしての使用より実習や部活動を優先したいとの要望あったことを踏まえ、ここに新築校舎を増築する予定である。プールで地面が掘削されている状況を活用して、1階部分には、既存校舎の教室では実現できない高い天井高を確保し、現在の洛陽工業高校にも設置しているが、経済産業省の電気工事関係の資格取得に必要となる、電気配線工事の練習を行うなどの、電気・電子系実習室を整備する予定である。

また、2階部分には、機械系の実習室または部活動のトレーニングルームとしての整備を検討しているところである。

新工業高校の整備に向けては、上記のとおり、現在、実施設計を進めているところであり、改修工事の着手は市議会の議決後となるが、本年度末までに改修工事の仮契約を

予定している。このため、この9月市会において29億8千万円の債務負担行為増額の審議予定である。

また、周辺住民の方への説明については、この9月初旬には、京都市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全及び形成に関する条例により、近隣の住民又は土地の所有者の方々への訪問等による工事概要の説明・資料配布を行ったところであり、概ね御理解いただいていると認識している。

また、近隣地元の深草・稲荷・砂川の3学区を対象とする地元説明会の実施に向け、自治連や社会福祉協議会の会長と調整を行っており、10月下旬に実施する予定である。

(委員からの主な意見)

- 視察時に正面エントランスが暗く感じたので明るくなるよう工夫をお願いしたい。
- 新工業高校では地域、企業、小・中学校との連携がますます大切になってくる。そのための交流スペースの整備も不可欠である。
- 現在計画しているホームルーム数で室数は不足しないか。
- プール跡地に建設する新棟の建設費は補正予算額に含まれているのか。
- 図書室について、蔵書やスペースの不足は生じないか。
- 新工業高校は地域連携を柱としているが現在の検討状況はどうか。
- 実習などで出る廃棄物の処理はどう対応するのか。
- 新工業高校は工業ならではの特長的な設備を整備することに加え、何より生徒たちの安全性に配慮すべき。また、中高連携の推進も一層進めるべきである。
- バリアフリー、人に優しい技術の活用など、「自分たちの学びを社会貢献に役立てる」という学校理念について、地域や外部の人にしっかり伝わるようにメッセージを発信することを大切にしてほしい。
- 「学び」「技術」「力」も大切だが、それらを支える「人間性」や「豊かな心」を育んでいくということが伝わるようなフレーズを再考してほしい。
- 視察時には学校全体の照明が暗い印象を受けた。また通学路、とりわけ自転車通学についてどのような対策を検討しているのか。
- 3箇所の借地のあり方に関する5月市会の附帯決議について対応はどうか。
- 洛陽・伏見工業高校を再編・統合して1校の工業高校とするのではなく、本日の議論や意見も参考いただき、新しい時代にふさわしい「ものづくり」「まちづくり」教育のあり方を力強く発信できる、全く新しい工業高校が創設されることに大いに期待している。

(事務局)

- エントランスは生徒たちが明るい気持ちとなるよう照明やスペースの配置を工夫したい。また、産学・地域連携など交流の場は不可欠であり、正面入口階段を大規模改修して「クリエイティブ CUBE」を新築することとしている。
- 定員について、平成27年度は両工業高校で270名としている。平成28年度以降は府教育委員会と協議していくが、全市的な中学生数の減少等も考慮すると、ホームルーム数は不足しないと考えている。
- 新棟（プール跡地）の建設費も補正予算額に含まれており、1階に資格取得のための

電気系実習室，2階にトレーニングルームもしくは実習室を整備する予定である。

- 「候補地選定委員会」においては既存校舎の改修費として23億円程度としていたが，教育内容の具体化を進める中，バリアフリー化，産学・地域連携の推進，資格取得，グラウンド有効活用等の観点で追加工事が必要となったため6億円程度の増額となる。
- 図書室については先だって実施した洛陽・伏見工業高校教員による施設見学会でも，桃山丘陵を見渡せる眺望が大変好評であった。選書や蔵書数についても両校とも相談して選書を進める予定である。
- 現在も洛陽・伏見工業高校とも地元商店街や小学校をはじめ様々な場面で地域連携にしっかりと取り組んでおり，具体的に検討を進めていきたい。また，地域から要望のある通学路対策も検討している。
- 実習等に出る廃棄物については専門業者に依頼して適正に処理をすることとしている。
- 幅広い年齢層の方に来校いただくこと，また肢体等に障害のある生徒の入学に対応することも考慮し，「クリエイト CUBE」内にエレベーターを設置するなど，バリアフリー化を進めている。また近隣地では伏見工業高校が既に「ビオトープづくり」や「市民農園での風力・太陽光発電の活用」に取り組んでいる。こうした礎をもとに，地域の御要望も改めてお聴きしながら，地域・社会貢献を通して，生徒たちの人間性や技術，キャリア意識を育むという新工業高校のメッセージを発信していきたい。
- 照明についてはLED化を図って照度を高めつつ節電を行う。さらに，空調設備も更新して学校全体として節電を進めていきたい。
- 通学路については，立命館中学・高校の生徒が通学している時点で，地元3小学生や龍谷大学生等の通学状況の調査・確認を行った。立命館中学・高校は1,700人程度の生徒の大半が最寄り駅から徒歩通学している状況だが，新工業高校は半分程度と見込まれ，さらに自転車通学者が増えると想定される。新工業高校においては，地元小学生の通学時間と重ならないような始業時間を検討する，また自転車通学路をある程度指定するなど，地域の皆さんの意見も十分に踏まえ，具体的な対応を検討する。
- すでに地主の方に附帯決議が付されていることを伝達しており，将来的な土地購入や借地料の適正化が必要との認識のもとでコンタクトをとっており，努力を継続する。

エ 非公開の宣言

委員長から，以下の議案1件，報告1件について，会議を非公開とすることを宣言。

オ 議案事項

議第16号 第66回教育功労者表彰について

(事務局説明)

○樫木総務課担当課長

今年で66回を迎える教育功労者表彰について，御説明申し上げます。教育功労者表彰については，毎年，業績表彰及び永年勤続表彰を実施している。

業績表彰については，個人・団体・学校の区分で表彰を実施しており，個人につい

ては、永年にわたり本市教育の発展に御貢献をいただいた方々に、団体については、本市教育の充実発展に多大な貢献をいただいた団体や、全国大会や近畿大会を京都市で開催し、その研究成果を全国に発信した研究会、そして地域の特色を活かし子どもたちの教育活動の向上に寄与した学校を表彰している。

また、永年勤続表彰については、勤続満30年以上の教職員及び勤続満20年以上の学校五師を表彰するものである。

本表彰の目的は、それぞれの功績を称え感謝の意を表するとともに、引き続き本市教育の発展に御尽力をお願いするという期待を込めて行うものである。今年度は、業績表彰では個人33件、団体17件、学校7件の計57件を候補とし、永年勤続表彰では、教職員205件、学校五師17件の222件を候補としてあげている。

候補者の選定にあたっては、事務局各課からの内申を基に選考会を重ねてきた。式典は平成26年11月13日（木）を予定している。それでは個々の表彰理由について、戸田課長補佐から説明させていただく。

○戸田課長補佐

それでは業績表彰候補者の表彰理由について、資料に基づき説明させていただく。

*業績表彰候補者の表彰理由について、資料に基づき説明。

(委員からの主な意見)

- 本表彰について、京都府教育委員会や文部科学省も同様の表彰を実施しているが、表彰基準の準拠や被表彰者の情報共有等を行っているのか。
- 本表彰の他に、特段顕著な功績をあげた方に対して、京都市の枠を越えた表彰はあるのか。
- 被表彰者について、役職を終えられた方と在職中の方の場合があるが、明確な基準はあるのか。
- 表彰件数について、上限等の規定はあるのか。
- 教職員が自己研鑽のために主体的に参加する研究会は非常に貴重な組織であり、京都の教育の強みであると改めて実感する。
- 素晴らしい功績をあげられ、その成果が広く知られている方々に対する表彰はもちろんのこと、地道に取組を積み重ねておられる方々に目を当てることが重要である。
- 毎年、多方面から様々な方々を表彰させていただいており、大変多くの方々に京都市の教育が支えられていることを実感する。

(事務局)

- 本表彰については、京都市独自のものであり、京都府等と調整等を行っているものではない。
- 本表彰以外の主な表彰として文部科学大臣教職員表彰があり、毎年10名程度の教職員を京都市から推薦している。
- 表彰にあたっては、それぞれの功績や状況を踏まえ選考しており、特定の役職を終えられた時点で表彰される方や在職中の方など、明確な基準があるものではない。
- 表彰総数について、特に上限を設けているわけではないが、毎年の件数との均衡は考慮している。

(議決)

委員長が、議第16号「第66回教育功労者表彰について」に対して、採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

カ 報告事項

平成27年度教員採用選考試験の最終結果について

(事務局説明) 教職員人事課長 東 元彦

まず全体概要について説明させていただく。今年度の退職者数は、若年退職者も含めて約300名と大量退職が続く。児童生徒の自然減に伴う定数の削減や、義務化になった再任用の希望者も若干多くなるが、27年度の採用内定者数については昨年度を41名上回る308名としたい。

全体の競争倍率は、志願者が昨年度並みの2183名。近畿の政令都市では志願倍率が6倍を切るところが多い中で、受験者に占める内定者の割合を示す実質倍率は6.2倍と高倍率になった。

校種・職種の内定者数と倍率は、幼稚園は2名、小学校は国際貢献活動経験者特別選考1名、新設の小学校英語教育推進コース7名を含む162名で、倍率は4.4倍。中学校は理数工志願者特別選考1名、保健体育志願者特別選考1名を合わせて全教科で73名、倍率9.7倍。高校は、国際貢献活動経験者特別選考1名、理数工志願者特別選考1名、保健体育志願者特別選考1名を合わせて20名で、12.3倍。また、総合支援学校は41名で、3.8倍。養護教諭は8名で9.4倍、栄養教諭は2名で16.5倍という高倍率となった。

幅広い年齢層からの多様な優れた人材の確保に向けて、17年度採用から実施している「国際貢献活動経験者特別選考」は、小学校1名と高校英語1名とした。教員として必要不可欠な、子どもを育てていきたいという情熱を持った方を選ぶことができた。

26年度採用から実施している「理数工志願者特別選考」は、24名が1次で受験し、7名を2次に進めたが、結果としては中学校の理科1名、高校の工業1名を内定することとなった。他の受験者はかなり専門性が高く優秀な方ばかりであったが、子どもと向き合っていこうという姿勢が弱かったため内定するまでには至らなかった。今回内定した「理数工志願者特別選考」のうち、中学校理科1名は、大学院医学系研究科卒業後、アメリカの医学研究所、フランスの生物学研究所を歴任後、現在は民間企業で肺がんの診断薬の開発などをされている方である。同じく「理数工志願者特別選考」で内定した高校の工業1名は、大学院で都市循環システム工学を専攻された後、民間企業の宮大工として現在も勤めている。

23年度採用から実施している「保健体育志願者特別選考」は、中学校1名・高校1名を内定した。中学校で内定した1名はハンドボールで、高校の国体で優勝し、大学はハンドボールの強豪校の勧誘を断り、教員になりたいということで教育大学に進学。今年、開催された東アジアU-22選手権大会の日本代表選手に選拔され見事2位になる活躍をされた。

高校で内定した1名はボート競技で、伏見工業高校出身者であり、競技成績も世界選手権6位、アジア大会優勝など数多くのメダルを獲得している。現在、市立学校の常勤講師とし

て勤め、教師の資質・力量の向上があり、今回内定に至った。

次に新卒者の状況であるが、内定者が 91、合格率が 18.7%と昨年度より 3.4 ポイントアップした。とりわけ、小学校では教師の素地を持った新卒者を多く確保できた。

一方で、即戦力として期待される現職教諭 2 年特例適用者を 17 名内定するなど、幅広い年齢層から優れた人材を確保し、多様化する教育課題に対応できる体制の構築が図られたと思う。

次に、京都ならではの教員養成システム出身者からの内定者であるが、塔南高校の教育みらい科の 1・2 期生の 13 名が受験し、最終結果としては、小学校 5 名が内定した。内訳は、2 期生が 4 名、1 期生が 1 名である。高校から教師を目指していたこともあり、内定者は教師の資質はもちろん明るく情熱があり、今後の成長が楽しみである。今後、後輩たちのお手本となるような教員に育てていきたい。

京都連合教職大学院については、カリキュラムの充実等の効果が現れたことにより、合格率も大幅にアップした。

京都教師塾 8 期生について、50 名を内定し合格率もアップしている。これは、質の高い教員養成がなされている成果の現れであり、塔南高校教育みらい科も含め本市の教員養成施策が着実に実を結んでいるものと考ええる。

1 次試験免除の特例である「大学推薦制度」であるが、今年度は 68 大学から 45 名の内定を出した。昨年度より約 10 ポイントアップした。受験者数は減少したが、各大学から優秀な人材を推薦していただいた。

前年度 1 次合格者の合格率も 14 ポイントアップした。この 1 年間の講師等の経験を積み重ねた結果の現れであると考ええる。

今後の予定であるが、最終結果を 22 日月曜日の午後 3 時に、市役所前掲示板とホームページで発表する。採用前研修会を 10 月中旬から来年 2 月までに延べ 10 回実施する。

また、昨今の不祥事を踏まえて、例年 12 月に行っている採用前面接において、教育公務員としての高い倫理観やその職責の重要性を自覚させるため、「服務研修」を新たに実施する。

(委員からの主な意見)

- 中学校の保健体育志願者が多いのはなぜか。
- 教員採用試験において、行政職の試験とは異なる点など、特に工夫している点はあるのか。
- 講師経験による受験者の資質の向上は、試験結果にも現れているのか。

(事務局)

- 中学校の保健体育の志願者が多いのは、免許状を取得できる大学が多いことが要因であると考えられる。
- 教員採用試験では、1 次の全受験者を対象に場面指導としてロールプレイを実施し、対応力を判断している。また、2 次試験において模擬授業による実践力を評価するとともに、集団面接では民間面接官の方にご協力いただき、多様な観点から受験者の資質能力を評価している。
- 新卒者をのぞく合格者の 8 割程度は講師経験者であり、経験を通じた実践力の向上が図られている。

(4) 閉会

12時00分、委員長が閉会を宣告。

署名 委員長